「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：和歌山県広川町

土木広報活動または作品名：稲むらの火の舞台で世代を越えて伝わる津波防災への想い「広村堤防と津浪祭」

広報活動または作品の概要

「稲むらの火」の伝承で、津波防災・復興の先駆者として世界的に知られる濱口梧陵翁。その遺徳を記念し、稲むらの火の 11 月 5 日は、2015 年の国連総会において「世界津波の日」として制定されました。

このように、濱口梧陵翁の精神を現代に引継ぎ、世界的に注目されている和歌山県広川町ですが、人々の暮らしを支える土木の役割・意義を伝える点からも、他の模範となる取り組みが行われています。

【自助・共助の精神が形になった土木遺産「広村堤防」】

・広村堤防は、梧陵翁の故郷広村（現：広川町）を襲った安政南海地震(1854 年 11 月 5 日)の大津波の後に、津波に対する不安を防ぐばかりでなく、被災により仕事・家庭を失った村人達の働き場の確保として、梧陵翁が私財を投じて築堤事業を進めたもので、まさに防災・復興における自助・共助の先駆的な取り組みです。

【子供たちへの津波防災の伝承「津浪祭」】

・津波祭は、広村堤防を築いた梧陵翁の遺徳をしのぶと共に、その津波防災の精神を次代に継承することを目的に、安政南海地震発生から 50 年を迎えた明治 36 年からはじまり、昨年の平成 29 年で 115 回を迎える取り組みです。津浪祭では、広村堤防の背後にある中学・小学校の生徒らが参加し、広村堤防に土盛りを行ない、地域を津波から守るために尽力した先人達に感謝の祈りを捧げます。(11 月 5 日開催)

津浪祭（子供らによる土盛りの状況）

多角的に広報媒体で周知

・広川町では津浪祭等の津波防災に関する取り組みを広報誌や動画配信で地域内外に広く紹介。

・広報紙関連記事による広報状況（2016.4.1～18.3.31 の間）
（16 年 3 月号・6 月号、17 年 3 月号・5 月号・10 月号）

YouTube 稲むらの火
【公式チャンネル】

広報活動の効果【防災教育としての効果】

・広川町の中・小学校では地域に伝承される「津浪祭」の精神を発展させ、防災教育に力を入れており、次代を担う世代への継承が行われています。

・防災教育への取り組みは、世界中からも注目されており、世界から高校生が集う「高校生サミットスタディツアー」が開催されました。

さらに、今年 2018 年には「世界津波の日　高校生サミット」(10.28～11.1）の開催が決定しており、防災教育としての効果は世界から注目されています。

高校生サミットスタディツアーの状況

付属資料の提出	■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）